

SAPPORO 教区 NEWS

第4号

2006年8月15日

発行：カトリック札幌司教区事務局広報部
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10

Tel. 011-241-2785 / ホームページ：http://www.csd.or.jp

二〇〇六年全道司祭大会開催

七月三日―五日の三日間にわたり、藤学園セミナーハウスと花川マリア院において、教区主催の二〇〇六年全道司祭大会が四五名の司祭が参加して行われました。

第一日目は、カトリック東京国際センター（CTIC）事務局長の川口薫神父様を招き、「外国人司牧における信徒宣教師の役割」と題して、東京での取組みをふまえ、外国人司牧の現状とこれから取組んでいくべき方向性を講演していただきました。

首都圏のある教区では、日本人信徒の六倍の外国人信徒が在籍していると言われております。言葉や生活習慣などの違いがありますが、その教区では豊かな交わりを目指して、多方面からの取り組みが考えられ行われています。

札幌教区でも、今年、フィリピンから信徒宣教師を招聘し、全道に千人余りの信徒がいるといわれているフィリピン人への司牧を具

体的に取組んでいこうと準備が進められています。

司祭、修道者、信徒三者の協力を基に、教区としての外国人司牧の方向性を充実していくことが現在求められているような気がします。

第二日目は、高松教区の溝部脩司教様を招き、「隠れキリシタンが培った典礼」と題して講演を頂きました。逆境の中で培われた典礼、そしてその意味深さを熱く語られました。



|| 講演に耳を傾ける神父様方 ||

アシジのフランシスコ 澤田 茂 神父様 帰天



澤田神父様は、腹痛を訴えられて今年の四月四日に札幌北楡病院に入院して腸閉塞の手術を行いました。その後、リハビリのため開成病院に転院し回復に努めてまいりましたが、七月二十日午後二十時二十分に神様のみもとに召されました。

お通夜は二一日（金）午後六時から、澤田神父様が入院するまで主任司祭を務めていた月寒教会で行われ、葬儀ミサ・告別式は翌二二日（土）の午前十一時から北一条教会（司教座聖堂）で、多くの司祭、修道者、信徒の方々が参列して執り行われました。出棺は、斎場の休日の関係で、二三日（日）午前十一時から行われ、遺骨は納骨式まで月寒教会に安置されます。神

父様の安息と、ご遺族のためにお祈り下さいますようお願いいたします。



|| 地主司教司式のミサ ||



|| 司祭団の別れ ||

【澤田神父様の略歴】

- 一九三六年一月一日 釧路市に生まれる
- 一九五二年八月十五日 受洗
- 一九六二年三月二十一日 司祭叙階
- 一九六二年四月 北一条教会助任
- 一九六六年九月 カナダ・アメリカ留学
- 一九七三年五月 俱知安、山鼻、富岡、千歳、恵庭教会の主任を歴任
- 二〇〇一年七月 月寒教会主任
- 二〇〇六年四月四日 北楡病院入院
- 二〇〇六年七月二十日 開成病院にて帰天享年七十歳



|| 献花する参列者 ||

東京教会管区会議が札幌で開催

七月十二日と十三日の二日間、札幌市で東京教会管区（横浜教区、東京教区、さいたま教区、新潟教区、仙台教区、札幌教区）の司教、司教総代理、司教評議会議長、教区事務局長等の二〇名が一同に集い、抱えている諸問題の解決に、教区を超えて広い視野で取組んでいこうと会議が行われました。

福岡教区長 ヨセフ 松永 久次郎 司教様 急逝



教・司教、駐日教皇庁大使、福岡教区内外の司祭、修道者、信徒千五百人が参列し、松永司教様に別れを偲び、神様のみもとの安息を祈った。

II 松永司教様略歴 II

今年の十二月の司祭叙階五十周年を目前にして、六月二日午前一時、脳溢血のため帰天された。享年七十六歳。お通夜は、四日午後七時から福岡カテドラルで、教区管理者・川上惣一神父司式でしめやかに執り行われた。地主司教様始め教区内外の司祭団五十余人と修道者、信徒八百人余りが参列し、突然の悲報に驚き悲しみにくれていた。

葬儀ミサ・告別式は、五日午前十一時より、同カテドラルにおいて、高見三明長崎大司教の司式で、白柳枢機卿をはじめ全国の大司

一九六二年四月六日
長崎大司教区書記長

一九六三年四月七日

長崎三ツ山教会主任兼任
一九六四年八月十三日
お告げのマリア修道会の
指導司祭

一九七七年十一月十日

長崎大司教区補佐司教に
任命

一九七八年二月五日

浦上教会にて司教叙階
一九九〇年十月六日
福岡教区長に任命

一九九一年一月十五日
着座

二〇〇六年六月二日
帰天



教皇庁大使と白柳枢機卿

II 教区司祭人事異動 II

一九五三年十月一日
ローマ・ウルバノ大学留学

一九五六年十二月二十二日
ローマにて司祭叙階

一九五七年六月二十日
ウルバノ大学卒業。その後ラテラノ大学、アンゼリコ大学にて教会法・神学博士を取得

▼月寒教会主任

上杉 昌弘 師
(東京カトリック神学院)

神学校特集

東京カトリック神学院での6年間



＝東京カトリック神学院＝

月寒教会 上杉 昌弘

祭になることを望む神学生を養成する所です。神学生は広島以東の十一教区に所属し、まず教区での養成を受けますが、約八ヶ月間の学期中は、勉強を中心として受けることが基本となりますが、年間の約九ヶ月、つまり学期中は神学校で養成を受けるのです。

私の役目はモデラトール

と言って、彼らとともに生活し、ともに祈り、生活上の指導（こちらが教えられることが多かった）をした。私と相談に乗ったりする仕事で、院長はじめ東京に三人、ガリラヤの家という初年度養成所に二人が働いていました。札幌教区の先輩では、田村（院長）、小林薫、今田玄五神父さんが、かつて神学校で働かれています。

司祭への召命——今の時のしるしは？

養成は大きく三つの次元（霊的、知的、人間的）に分かれます。モデラトールは主として神学生の人間的養成に関わりながら、三つの分野を統合した形で養成を受けられるよう調整する役目です。東京の神学校は特に、神学生が主体的に自

己の課題と向き合い、鍛錬していくことを求める自己養成の気風があるので、そのためのお手伝いといったらよいでしょうか。私のおの仕事としては、学校で言うところの教務（カリキュラム、成績管理、入試関係、二十五人の講師との連絡調整、教皇庁立ウルバノ大学の日本校としての事務仕事）が加わっていたので、それほど暇はありませんでした。

神学生という日本では稀な？青年たちとの生活は楽しいものでした。教会の祈りやミサを一緒にすること、決まった時間の中で生活を送ること、教会の使命や司祭職について分かち合うこと、遊ぶことなど。何と云っても、教会の次代を担う若者と知り合いになれたことは私にとって大きな役得でした。

那須と東京に現在三六人の神学生がいますが、多文化共生のカトリック教会なので、国籍も六カ国、八名に及びます。互いの文化について生活の中で学んできますが、言葉や考え方の違

どんな仕事？

どんな生活？

東京の神学校は、教区司

いによる行き違いがあったりして、痛みを通して身につけることも多いです。コミュニケーションをよくとる事が重要であり、将来共に働くための関わり合うことが、養成上の大切な点になっていきます。一緒に働いて行ける者であるかどうかは、叙階への識別にとっても問われて来るのです。

神様が教会にお集めになった様々な背景を持った人みんな、神の国を証しているような奉仕することが、特に現代の司祭に求められていることなのだと感じました。また機会があれば書かせていただきますが、司祭という、キリストに従う道は本当に生涯をかけるに値するすばらしい道です。この記事を読まれた青年の皆さん、何か感じるものがあれば主任神父さんか、教区の養成担当者、また私までご連絡ください。歓迎いたします。

助祭叙階の恵みを受けて

助祭 森田 健児

意識の変化

三月に助祭叙階式があり、大勢の人から祈りと祝

福をいただきました。式に来てくださった方々、また来られなかったけれども祈ってくださった方々に感謝いたします。神学院に入ったときから司祭になる心構えはしていたので、叙階式のときに格別になつたことといってもそれ程ないのですが、叙階式直後から意識が少し変わってきたように思います。簡単に言うと「公人」になつたという意識です。神から叙階を頂き、また教会によつても正式に教区に「入籍」することとなり、聖職者となりました。神から「霊印」を押され、一生涯消えないもの、とされています。神のもの、教会のもの、という意識です。もう自分は自分のものではない、と自分に言い聞かせています。神学校でも今までの扱いとは違つて聖職者として扱われ、祈りを司式し、説教を、「助祭団」と言われるようになります。

教会の祈り

助祭になると「教会の祈り（聖務日課）」を唱えることが義務となります。神を賛美する、幸いな義務と言つてもよいかもしれませ

ん。かつて典礼を勉強した時に、毎日「教会の祈り」をする時は、世界の教会と心を合わせてする、と教えられました。一人で「教会の祈り」を唱えたとしても、それは自分ひとりのために祈つたのではなく、世界で「教会の祈り」をしている司祭、修道者、信徒と一緒に捧げていることになりました。また叙階式の式文中で、「教会と全世界のために祈る」ことを誓います。だから「教会の祈り」を唱えるたびに、わたしは今日仕事にでかける信徒の方がた、今日一日を始めようとする主婦や学生のことを思い出します。フィリピンで見た貧しい人々、最近出会ったプロテスタントの牧師さん、難しい政治の世界で奮闘している政治家たち、苦しんでいる友人を思い出します。

電車で祈るのにも少し勇気が出たと感じています。祈りの時間に外出する時には「教会の祈り」を持ってゆきます。電車で祈りの本のカバーを開け、人目も気にせず祈るようになって来ました。これも叙階の恵みかもしれません。

「助祭コース」の授業

勉強も今までの五年間とは少し異なり、実践的なものが増えてきます。洗礼、初聖体、病人訪問、結婚式などに向けて、それぞれの分野で活躍しておられる神父様やシスターをお呼びしてお話をさせていただく、「典礼カテケシス」のコースがあります。この前は子供の信仰教育や初聖体の分野で知られているシスター景山のお話をうかがいました。

組んでいけるかなどを学ぶコースもあります。これまでの授業と違い、私たち助祭団も意識が断然違います。質問が飛び交い、意見が飛び交います。残り少ない一年間の勉強を大切にしようという気持ちと、今学ぶことがすぐに現場につながるのだという意識の現れです。

お祈りください

まだまだ駆け出しです。そして司祭叙階が控えています。いつまでこの新鮮な気持ちが続くのか分かりませんが、またいつ失敗し、いつ気が緩んでしまうかわかりません。負けないように、そして一生涯をふさわしくまっとうできるように祈りたいし、祈っていたきたいと願っております。

神学院生活について

神学科三年 加藤 鐵男

私の神学院生活も初年度的那須での一年と、東京でも三年を経過して五年目に入りました。修道院生活ですと「祈り、かつ働け」となりますが、ここでは「祈り、かつ勉強しなさい」となります。私にとって那須での一年は、北海道の風景と変わらぬ環境の中で、好きな山登りには、登山口までバイクで三十分しかかからず、申し訳ないくらいに恵まれた地で養成を受けたと感謝しています。東京に来てみると周囲は緑に囲まれ、「ここが本当に東京」と思わず叫びたくなるほどの、それまで想像していたゴミゴミした中の生活ではありませんでした。従つて、環境整備の仕事も、地面に深さ二メートル直径五メートルの穴掘り、ちょっとした森からの木の伐採、プロが使用する草刈り機でも一週間はかかる草刈などの都会では考えられない仕事、私たちを待っています。

毎日の生活は、午前六時十分からの黙想、三十分か



＝マリア祭＝

らの朝の祈り、七時からのミサで一日が始まります。朝食後九時から昼食をはさんで午後四時五十分までは、授業があります。ただし、学年が上がるごとに授業は、徐々に少なくなっていく行きます。午後六時十分からの夕の祈りのあと夕食を食べて平常の一日は終わり、自由時間となります。

このパターンを四年間過ごしてきたわけですが、不思議に思うのは楽しんで、一日いちにちを過ごさせていただいたと言う気が致します。これは、誇張ではありません、本心からそう思えるのです。人生経験が豊富なからでしょうか。年齢を重ねているからでしょうか。結婚生活を経験しているからでしょうか。振り返ってみるときつと辛いこと、苦しいこと、憤ったことなど多々有った筈なのです。生活費を自分で稼ぐこともなく、寝るところもあり、食事の心配も無く私にとっては、申し訳なく思える日々だからでしょうか。

これは、きつと姿は見えないものの、宇宙万物を造り、全てを知り、出来ないことは何一つなく、同時にすべてのところに居られ、

永遠で変わること無く、罪のけがれもなく、正しい方であり、限りなく私たちを愛してくださる御方に、素直に全てを委ねることが出来るようになったからではないでしょうか。御旨のままにと自分を差し出す勇気がわいてきたからではないでしょうか。神学院生活において、それまでの、すべて自分中心主義を徐々にそぎ落とされ、仲間

に助けられ、物心両面で援助してくださる共同体の皆さんに助けられて、将来の司祭職に向けて変えられて行く自分で、あるように思えるのです。

感謝の内に私が、このような自分でいつまでもいられますようにとこれからも、日々の祈りの中で願っていききたいと思えます。



＝神学院中庭＝

カリタス家庭支援センター支援・春のコンサート開催

五月二十日(土)札幌北一条教会でカリタス家庭支援センターを支援するためのコンサートが開かれ、約二百人の聴衆が讃美歌を中心とするソプラノと合唱の響きを楽しんだ。



＝コンサートを楽しむ＝

このコンサートは同センターの発足を期に、これを支援していこうとする手戸一郎先生(元天使病院院長)などのご尽力で、毎年春・秋に開かれており今年で四回目になる。

毎回プロの音楽家の方々がこの主旨に賛同して無料出演を下さり、今回も真部恵子さん(ソプラノ)と札幌グロリアコール合唱団が「平和の祈り」をテーマに約一時間半カッチーニ

のオペマリア、アシジのフランシスコの平和の祈り(A・ボテ作曲)、驚くべき恵み(水野源三作詞・真部武弘作曲)などの曲で神を称え賛美した。また、曲の始めに歌詞に関連する聖書の一節を朗読するなど、教会でのコンサートにふさわしい雰囲気をも出し出していた。聴衆の皆さんも聖堂に響き渡る賛美の声に感動し「祈りと賛美」の素晴らしさを実感できて良かったと率直な感想をもらしていた。

このセンターは二年前の五月、札幌教区の福音宣教・社会福祉奉仕の一環として札幌教区の指導・支援を受けて開設され、家庭や社会での悩みの相談を、社会福祉士・精神保健福祉士が無料で引き受けており、社会保障制度などの手続きの手助けもしている。

代表の堤 邑江さんは「神様のお導きと司教様はじめ多くの皆さんのお陰で、なんとか二年間続けてこれました。私自身が当初思っていた以上に一人ではどうにもならないような悩み苦しみを抱えている方々が多く、ますますこのような相談施設の必要を感じています。私たちだけではほんの小さな事しか出来ませんが、これからも皆さんのお力添えを戴きながら続けて行きたいと願っております。出演者の方をはじめ、コンサートのため毎回会場をお貸し頂く北一条教会、バザーのためのケーキ・小物作りをして下さる方、お手伝いを戴くボランティアの皆さん、そして支援コンサート実行委員会の方のご支援を心より感謝しております。」と語った。

札幌マツクも法人化して三年目を迎えることになりました。平成十七年四月に女性グループホームとして開所しました「パスカーリナ」では、現在、定員の四名が入居し、仲間と一緒に共同生活をしながら、アルコール・薬物を使わないで新しい人生を歩み、健康的な生活習慣を身に付けて社会復帰(自立)を目指しています。(☎ 〇一一八 一二一九〇三)

NPO法人札幌マツクグループホームでの生活

▼入所条件
① アルコール・薬物依存症から回復したいと願っている女性
② 回復のためマツクプログラムに従うこと
③ 一日三回のミーティングに参加できること

▼入所するには
病院の医療相談室や、保健センターまで相談してください
▼入所要項
① 入居定員：四名
② 部屋(個室)：六畳
③ 家賃：三万五千元
④ 共益費：三千五百円
⑤ ハウス経費(水光熱費) (夏) 一万二千元 (冬) 一万七千元

札幌地区西ブロック交流会、盛り上げる

札幌地区の教会を東西南北の四つに分け、それぞれが相互協力や交わりを深める試みが始まって二年が経った。西ブロックに所属する円山・手稲・住ノ江・富岡・倶知安の五教会に、更に花川も加えた六教会の交流の集いが、五月二十日(土)の晴天の日、藤女子大学花川体育館で催された。これは、昨年のブロック会議で、モデラトールの新海雅典神父様による「元氣の西ブロックのための諸提案」の中から実現のはこびとなったもので、今年に入り三回の準備会を重ねた上で実施された。



久野勉神父様と西ブロック司祭団による合同ミサ

当日は、午前十時に花川体育館に集合し、午前中はまず合同ミサが捧げられた。昨年、司祭五十周年の金祝を迎えられた久野勉神父様(倶知安)の主式のもと、新海雅典神父様(住ノ江・富岡)、エミール・デュマ神父様(円山)、ジェームス・マイレット神父様(手稲・花川)の共同司式によって、約百四十名の信徒が、「西ブロックの教会相互の交わりと宣教の働きのために」神の助けをとものに祈った。久野神父様は説教の中で、先日ブラジルから一時帰国されていた佐々木治夫神父様の話にふれ、「福音宣教とは、ことばだけではなく行いが伴わなくてはならないこと。特に、苦しむ人々、貧しい人々への愛の奉仕を通して、福音は具体的に伝わってゆくこと」を強調された。

昼食の後、午後からは各教会からの「出し物」が次々に披露された。

一番目は、円山教会による「ジャンケン・ゲーム」二番目は、住ノ江教会による「聖書〇×クイズ」三番目は、富岡教会による「アリアンの歌と踊り」四番目は、手稲教会による「ヨサコイ・ソーラン踊り」



「アブラハムと七人の子」ダンスや、最後には、全員輪になっての「北海道踊り」まで飛び出し、楽しい中にも和やかな盛り上がりを見せた。

更に、この交流会には、小中学生の参加者も比較的多かったため、このあと七月三十一日から八月二日にかけての「西ブロック合同夏期学校」に向けての大きな弾みになることを期待している。このような交流の集いを通して、これからも西ブロックの交わりと、宣教へ向けての相互協力を深めてゆきたいと考えています。

教区・各地区行事

教区

- 7月3日(月) 5日(水) 全道司祭大会 (花川セミナーハウス)
- 7月12日(水) 13日(木) 東京教会管区会議 (札幌プリンスホテル)
- 9月24日(日) 国際デー (北1条教会)
- 25日(月) 29日(金) 教区司祭黙想会 (トラピスト)

札幌地区

- 7月5日(水) 地区宣司評事務局会議 (司教館)
- 16日(日) 第39回評議会 (北11条教会)
- 30日(日) 使徒職大会実行委員会 (月寒教会)
- 8月9日(水) 地区宣司評事務局会議 (司教館)
- 15日(火) 平和祈願ミサ・平和行進 (北1条教会)
- 20日(日) 使徒職大会実行委員会 (月寒教会)
- 9月6日(水) 地区宣司評事務局会議 (司教館)
- 10日(日) 第40回評議会 (北26条教会)

函館地区

- 7月28日(金) 30日(日) 地区合同夏期学校 (湯川教会)
- 8月20日(日) 地区合同ミサ・親睦会 (宮前町教会)
- 9月17日(日) 函館市内教会合同懇談会

釧路地区

- 8月27日(日) 釧路地区信徒大会 (釧路教会)

旭川地区

- 7月27日(木) 旭川市宗教者懇話会 (加納太霊院)
- 8月1日(火) 3日(木) 旭川市内合同サマースクール
- 16日(水) 20日(日) 旭川地区・東京四教会青少年交流会
- 20日(日) 旭川地区カトリック大会
- 9月4日(月) 9日(土) 北海道フランススコ会黙想会
- 16日(土) 17日(日) 旭川地区信徒黙想会

苫小牧地区

- 7月12日(水) 第3回苫小牧キリスト教船員奉仕会役員会 (シーフェアラーズセンター)
- 14日(金) 海の日記念パーティー (シーフェアラーズセンター)
- 7月30日(日) 室蘭ブロック合同ミサ・ブロック会議 (登別教会)
- 8月5日(土) 7日(月) 室蘭ブロック夏期学校 (ネイバル洞爺)
- 27日(日) 第41回苫小牧地区女性大会 (苫小牧グランドホテルニュー王子)

北見地区

- 8月27日(日) 北見地区大会・パウロ神父様金祝祝賀会

カルチャーナイト2006に北一条教会が参加

7月21日(金)に公共施設や文化施設を夜間開放して行なわれた、市民が地域の文化を楽しむ行事カルチャーナイトに北一条教会が参画。

81施設が参加して行われ、北一条教会では、18:30からミサとミニ・コンサートが行われました。

新しい「心のもしび」テレビ番組が7月1日からスタート

毎週土曜日 8時45分～
 スカイA 『ケーブルTV、衛星放送スカイパーフェクTV (Ch285)、衛星放送スカイパーフェクTV110 (Ch255)』
 第1、第3日曜日 9時と18時30分～
 楽天TV スカイパーフェクTV (Ch216)
 スカイAをご覧になれない方は、次のWebページでいつでもご覧頂けます。 <http://www.tomoshihi.or.jp>

ポーランドでゼノ修道士の生き様をミュージカル上演



＝ベネディクト十六世から拍手を受けている子どもたち＝

札幌こどもミュージカル（代表・細川眞理子氏、五十八歳までの四十九名）は、四月二十日～二十八日の九日間の日程で、ポーツランド、イタリヤ、バチカンを訪問し、ゼノ修道士を描いたミュージカル「ニンゲン・コレ・ミナ・オナジ」や、アイヌの生活を描いた「ひとつのおわんでトゥ・ミク・ミク」を公演したり、サンピエトロ広場での教皇謁見で歌を披露し、教皇ベネディクト十六世から拍手を受けた。

教区風の

「数字のもつ意味」

聖書のシンボル五〇（オリエンス宗教研究所刊）から聖書の中での数の意味を考えて見たいと思います。

一という数字は、唯一の神を指していると記されています。全てのものの元は一つで、一つであるから一は『一致』を表しています。

二は、人間の罪の結果一は破壊され、善と悪、男と女、命と死など、何でも二つになり、この世に『分裂』が生じたと言われています。元の『一』を取り戻すのが、救いの目的でもあるということなのです。

三は、物と時の『初め』『真ん中』『終わり』を表すと同時に、三により二元性、相対性が解釈されると述べられています。三位一体が代表的な言葉ですが、聖書と典礼の中では、三と三回は『神の世界』を示していると言われています。

四は、『自然』を表す数とされています。昔から人々は四方があることに気づいていましたし、温帯地域には、春・夏・秋・冬の四季があります。昔のギリ

シヤでは、全てのものは『土、水、火、風』の四大

元素から成ると教えられていました。四つの福音書を始め、創世記二・十、エゼキエル一・四―一四でも書かれてるように、聖書の中で四という数字は、神がお創りになった『全宇宙』『全世界』を表しています。

ヨハネ黙示録四・七に出てくる四つの生き物（人間、ライオン、雄牛、鷲）は一人ひとりの福音史家のシンボルと成りました。そして、そのシンボルは、いずれの各福音書の始まりと密接な関係があります。

五という数は、モーゼ五書、五つのパンで五千人を救った記述、五人の賢い乙女の記述、五タラントを僕に預ける行など、聖書によく使われている数なのですが、その由来は、専門家にもはっきり分からないという事です。十戒は2枚の石板に半分ずつ書かれていることや、人の手と足は五本ずつあるというように、半分が五だったからかもしれません。

六という数は、完成を意味している七から一つ足りない『何か足りない』という意味になります。ヨハネ黙示録一三・一八に「ここに知恵が必要である。賢い人は、獣の数字にどのような意味があるかを考えるがよい。数字は人間を指している。そして、数字は六百六十六である」とあります。あてこの六六六は誰を指しているのでしょうか？アンチクリスト、キリストの敵を指していると言われています。中でも最有力候補は、ローマ皇帝ネロという説で、ヘブライ語には数字がなくアルファベットで数を表します。ヘブライ語でネロの名前を数えると、ちょうど六六六になるそうです。しかし、これについてはいろいろ疑問があり、黙示録は誰と明記しないで、悪い数である六を六六六と三回、完全に重ねることによって、一番悪いアンチクリストを言い表したかったのかもしれません。

七は、聖書の中で一番大切な数です。例えば、皆さんがよくご存知の創世記二・三、神が天地万物を創造され、仕事を離れて祝福されたのが第七の日であったため、イスラエルでは一週間を七日と決めました。

この他にも聖書で七が使われている箇所は、数えきれないほどです。レビ記二五・四、民数記八・二、ヨシヤア記六・四、マルコ八・五―一〇、マタイ一八・二―一二などで、ヨハネ黙示録にはほとんど各章に七という数字が出てきます。自然の中でも、月は新月から七日たつと半月、さらに七日たつと満月、また七日たつと半月、そしてまた七日たつと新月に戻ります。聖書の書かれた時代には、地球を中心に惑星が七つあると考えられていて、惑星の名がそのまま『日、月、火、水、木、金、土』と曜日の名に残りました。そして、現代の教会でも、七つの罪源、聖霊の七つの賜物、七つの秘跡など七は重要な数字とされています。ラッキーセブンという言葉をよく耳にしますが、聖書の中で七は幸運を意味していません。七は『完成』を表しています。『三』は神の世界を、『四』は自然を意味すると述べましたが、七は神の世界の三と自然の世界の四を合わせた『完成』を意味すると言われています。

（札幌・数の申し子）

最初、葬儀等の関係で教区ニュースの発行が遅れましたことお詫び申し上げます。次号は、夏休みに行われた各地区の行事等の様子をお伝えしたいと思います。皆様の寄稿をお待ちしています。（編集子）

● 訃報 ●

▽ゲオルゴオの聖フランシスコ修道会 Sr. M. マチア 田原 嘉子

生年月日 一九四五年十月十八日
受洗 一九四六年八月十五日
入会 一九六九年三月二十五日
初誓願 一九七二年八月十二日
終生誓願 一九八一年八月十二日
帰天 二〇〇六年七月十七日

※ シスター・マチアは、二〇〇一年から司教館に勤務し、司教様の食事や身の回りの世話にあたっていました。神様のみもとでの安息をお祈り下さい。

● 編集後記 ●